

北陸「富山・石川」の快適宣言！

優しさに包まれる素足で暮らす家

夏はサラッと、冬は素足でもヒヤッとせず、梅雨もジメジメしない。

四季それぞれに素のままに暮らす、そんな家のご提案です。



サラッとした夏、ホッとする冬、素のままで暮らす四季の家 『素足で暮らす家』ってどんな家？

ホッとする
冬

「床暖房なんですか？」って聞かれます。
素足でもホッコリあったかなんです。

北陸の冬は暖房無しでは過ごせません。しかし、
どんなに暖房をしても足元が冷える、というこ
とはありませんか？

温められた空気が上昇し、顔のまわりばかり暑く
頬も真っ赤なのに、足元は靴下やタイツが欠かせ
ない…なんてことも。

「床暖房を設けたわけでもないのに、真冬でも素
足で歩けますし、雪が降っている日でも湿気が少
ないので足の裏がサラサラ。温かいのにジメとし
ない、まさに理想の家です。」
そんな声が届いています。

素足でいても全然ヒヤッとしません。

さらに天井と床の温度差が10℃以上ある一般的な住まいに比べ、“素足の家”では1℃以内。家中の部
屋の仕切り戸を開放して、子供達も元気に素足で走りまわることが出来ます。

また無垢材ならではのホッコリとした暖かさがあり、お子様にも安心です。足の裏はとても敏感で、ちょっ
とした温度変化やざらつきを感じとります。素足で過ごすことによって、成長期のお子様は、足の指を動
かし脳の活性化にも繋がりますし、土踏まずにもいい効果があるといわれています。

例えば湿気によって床がジメジメすることがあっても、素足で生活をしていればそんな家の変化にもすぐ
に気づくことが出来ます。快適に素足で生活できる環境は、家にとっても良い環境なのです。



ホッとする
冬

朝起きてもほんわり温かい



寒い冬の朝。一番に起きて、朝食の支度や掃除をする
奥様にとっては辛い時間です。「寒くて布団から出たく
ない」と思う方も多いでしょう。

“素足の家”では家全体を断熱化しているので、熱が逃げ
にくく、朝でもほんわりとした暖かさが残っています。しかし
断熱が不十分だと、熱が早く外へ逃げて冷え込むと同時に
壁・床・窓の表面温度も低くなり、寒く感じるることがありま
す。上下の温度差が少ないと体感温度が高くなります。

ほんわりとした暖かさに包まれた朝は、心にもゆとりができ、
笑顔で「おはよう」が自然と飛び交うのではないのでしょうか。

サラッとした
夏

エアコン無しの快適生活を提案します！

薄着で冷房の強いオフィスにいることが多い女性の方や、乳幼児、高齢者の中にはエアコンの風が嫌いな方って結構いらっしゃると思います。体がだるくなってきたり、頭痛がしてきたり…症状は様々だと思いますが、どれも冷房病の一種と考えられます。

「膝を痛めているので、エアコンをかけると、とても辛いです。」というお悩みをもったご夫婦から、いい家・住まいの計画をしたいとの相談を頂きました。

単純な外断熱に加えて、二重の通気層を設けているため、北陸の極寒地、富山県の冬でも暖かく暮らすことを当然のごとくクリアし、夏に昔の家のように風が通り抜ける住まいを実現します。

結果として、ご夫婦には大変満足していただくことが出来ました。

「北陸・富山のジメジメした夏でもほとんどエアコンをかけなくてもいい住まい。膝も痛くないです。」との嬉しいお言葉をいただきました。



ジメジメしない
梅雨

アトピー、アレルギーを諦めていませんか？

様々なアレルギーがありますが、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎気管支喘息と多岐にわたる原因になるダニやカビ。結露しやすい環境はダニやカビが発生しやすくなります。“素足の家”の窓は、断熱性と防露性に優れた高性能樹脂サッシで、住まいを結露から守ります。また、住まいにこもる湿気を、二重になった壁を通して自然の気流が外へ逃がしてくれます。梅雨時期でも湿度が60%以下なので、カビがほとんど繁殖しません。

花粉

シーズンを
乗り切る

花粉症で困っていたんですが…

花粉の時期になると、花粉の侵入を防ぐために窓を閉め、衣類に花粉がつかないように洗濯物は室内干しが当たり前。少しでも症状を抑えたいですね。“素足の家”では、24時間換気の入り口で外の空気の汚れを高性能除じんフィルターをはじめ3層のフィルターで除去しているので、花粉やホコリが少ないのが特徴です。

キッカケは二組のお客様の疑問でした



2001年のことでした。二組のお客様から偶然ながら同じ質問を頂いたのです。一人は地元の銀行に勤めるSさん、もう一人は会社を経営しておられるTさんでした。その質問内容が、『ソーラーサーキットの家というシステムについて書いてある本がある。読んでみたが、とてもいい事ばかり書いてある。この本に書いてある内容は事実なのか？ 本当に可能なのか？』というもので、その手に「〇〇」という本を持って当社を訪ねてこられました。

その時、私は「外断熱」という言葉に不信感を感じていました。内部の結露とか、施工の方法とか、自分の中では納得できるものではなかったのです。そして、今考えるととても恥ずかしいのですが、私はその時まで「ソーラーサーキットの家」という名前を聞いたことが無かったのです。外断熱をいうことだけで、シャットアウトしていたのかもしれませんが。

建築の専門家としては、お客様から聞かれたことに答えられないのは、私の自尊心が許しません。しばらくの時間を戴き、本を読み、理解しにくいところに付箋を貼り、何回も読み返し、理解できない点はソーラーサーキットの本部に問合せ、理解できるまで何度も質問をして一週間が経ちました。

この「ソーラーサーキットの家」って、もしかして凄いいんじゃないか！もっと調べなきゃ！

この一週間を通して、そう感じた私は、さらに二週間後には東京へ〈ソーラーサーキットの家〉の研修会に参加するために出かけていました。

…今考えると私にとってSさんとTさんは、とても大事な恩人です。なぜなら、お二人のお陰で私はソーラーサーキットの家(SCの家)に出会うことが出来たのですから。そしてさらに、Tさんは当社に初のSCの家を発注してくださったお施主様なのです。足を向けて寝られないくらい、心から感謝です。

体感ハウス『K's house (ケーズハウス)』が出来るまで

すべては、お客さまに心の底から『素足で暮らす家』をお勧めしたいからです。

前頁にも書きましたが、二組のお客様から偶然ながら同じ質問を頂いたお陰で『素足で暮らす家』の大事な根本の仕組みであるソーラーサーキットの家を取り入れる決断をすることができたのですが、平成24年3月13日に『K's house (ケーズハウス)』が完成し、実際そこで毎日生活することが出来るまで…実は、私の心の中では、ずっと葛藤がありました。

『素足で暮らす家』の良さは解っている・

…しっかり勉強した。理屈でもしっかり説明できる。

…体感も、もちろん何回もして、きっちり確認した。

…最高の室内環境を造ってくれるのは十分に解っている！

しかし、それでも私は『素足で暮らす家』に実際に毎日暮らしている訳ではない。

そんな私が、皆にこの家の良さを訴え、勧めている。

…これでは、充分ではないのではないかと！

やっぱり自分が毎日住んで、日々色々な条件のもとで、直に自分が体感して、その上で皆に伝えないと本物にはならないのではないかと！！

そうだ！自分で「素足で暮らす家」に住まなければ何事も前に進めない！

そうして、決断し、計画したのですが、想像通り幾つもの壁がありました。

まずは、当然ながら資金のことです。私と妻と母、三人暮らしなので、住まう為にそんな大きな住まいは要りません。しかし、体感ハウスとなれば、事情が違ってきます。ある程度の規模が必要です。多額の資金を金融機関から借りないといけません。必要性を時間をかけて説明し、何とか了解を得ることが出来ました。その次は、「今までの住まいの古材・古建具などを有効に使う」ということです。

これは、いわば材木屋三代目としての私の使命がありますので、新旧の取り合いや古材の活かし方を色々検討し、時間をかけて計画を練りました。

また、仕事は当然のことながら、自分のことよりお客様のことが第一優先なので、つつい仕事は遅れていきます。

右往左往しながらも、会社の皆さんの大変な協力を戴きながら、『K's House』の完成を見たのです。これを有効に活用させて戴かないとバチが当たります。

……そうして、自信を持って皆さんにお伝えしていきます。

「素足で暮らす家」……優しさにつつまれた、最高の住まいごちを体感して下さい。

体感ハウス『K's house (ケーズハウス)』

平成24年3月に完成した『K's house (ケーズハウス)』ですが、性能は今も変わりません。
体感ハウス兼自宅ということで、さまざまな「こだわり」が詰まっています。そのほんの一部をご紹介します。

玄関ホールの吹き抜け

三階までの玄関ホールの吹き抜けを造りました。

建物で一番高い三階まで伸びた柱…木の力強さ、潔さ、生きている力を現したかったのです。気持ちの良い伸びやかな空間が生まれたと自負しています。冬は暖気が上にあがり寒くなる、と敬遠される玄関ホールですが、ちゃんと断熱をしっかりと、暖房の方法を輻射熱タイプにすれば全然大丈夫です。空気を暖める暖房ではこうはいきません。夏は北側の涼風を一階から取り入れて三階のトップライトから外部へ出す。この“下から取り入れて、上から出す”という空気の流れを造り、エアコンを使わないで夏を暮らします。

古材の再利用や地域産材を利用した内装

リビングには昔の家で広間として使われていた『桢の内』を再利用しています。正式な『桢の内』ではありませんが、先代が造られた大切な財産です。また、インナーテラスへの入り口に蔵の戸を再活用しました。蔵の修繕は難しく泣く泣く解体したわけですが、こちらも何とか先代の跡を残せないかと考えて今の形に落ち着き、昔の面影を色濃く残す住まいとなりました。1階の床には、厚さ30mmもある杉の無垢板を、玄関まわりの天井には桢目の綺麗な杉板を使用しました。どこにいても木の香りやぬくもりが感じられます。



施工事例 NO.2

周囲の自然と一体化し、樹木の景観を生かした住まい



小矢部市H様邸

小高い山の裾野に位置するH邸。敷地内の樹木には家族全員深い思い入れがあったため、それを極力切らず、以前の家から眺められた景観を大切に引き継ぐ事をテーマに設計されました。「この部屋から見える紅葉」といった思いを一つ残らずくみ取り、全ての窓や場所に重要な意味がある住まいとなりました。

施工事例 NO.3

お子様の健康を一番に考えた家づくり



高岡市M様邸

3人のお子様がいっしょに暮らすM様ご夫婦。「子供に少しぜんそくのような症状があり、身体に優しい家造りをしたいと思います。アキさんの木へのこだわりやソーラーサーキット工法に関心を持ちました。」と当社のホームページよりお問合せいただき、M様の家づくりがスタートしました。

体感ハウス『K's house (ケーズハウス)』
ご見学希望の方は事前申込をお願いします。

※見学希望の旨をお伝えください。随時受け付けております。

TEL 0766-69-8703

Mail aki@k-aki.com